

2014年 12月 26日

10/25：稲刈りイベント 11/16：脱穀イベント

■ 10月25日（土）参加者：92名・・・活動内容：日本晴れの稲刈り

■ 11月16日（日）参加者：99名・・・活動内容：日本晴れの脱穀、踏耕、藁ない、どんぐりアート



2014. 10. 25 ついに収穫！待ちに待った稲刈り！！



みなさんが5月に植えた苗はぐんぐん育ち、たわわに実っています！

金色の綺麗な稲穂です！ →

参加者の方たちの到着前に、ボランティアの人たちが達人さんからレクチャーを受けます。オダを建てるのはなかなか大変。



調理班もスタッフ含め100名以上のお昼ご飯をつくるとなると気合が入っているようでした！

本日のメインはこ
ちらの秋刀魚！



それぞれの班で、稲刈りについてのレクチャーを受け、みんなで稲刈り開始です！鎌の使い方には十分注意して、稲を刈っていきます。



← 《おとうさんと一緒に稲刈り体験！上手に刈れたかなー？》

刈っていくひと、それを束ねて結ぶひと、束ねた稲をオダまで運ぶひと、その稲をオダにかける人・・・みなさん周りを見ながら上手に役割分担をおこない、一連の動作が流れるように進んでいきます。さすが NEC のみなさん！息がぴったりです。



＊



子どもたちは生き物観察に夢中＊

＊稲に隠れていたカマキリも！＊



子どもたちが率先して稲運びをしてくれています！
稲束って実はなかなか重いんです！いっちに、いっちに！



←長いオダをかけるのも一苦
労！「せーのっ」
という声が聞こえてきそうですね！

午前中にひとしきり稲刈りをした後は、美味しい美味しいお昼ご飯！調理班のみなさんが心を込めてつくってくれました。地元食材を使ったご飯は格別！秋刀魚も上手に焼けました。美味しかったー！



午後からもみなさん一生懸命刈ってくれたので、無事に全ての稲を刈りきりました！その刈ったあとの田んぼには、アキアカネが早速卵を産みにきている様子も見られました。「赤とんぼ」で親しまれているアキアカネは、ちょうどこの稲刈りの時期に、産卵のため山から降りてきます。しかし最近の田んぼは、稲刈り前にすっかり田んぼの水を抜いて、地面を固くしてしまうためにアキアカネが産卵できなくなってしまうのです。みなさんに田んぼの中を歩き回って頂いたおかげで、アキアカネが喜んでますよー！来年もたくさんのアキアカネがみられるといいですね。



みなさん、いい笑顔！お疲れ様でした！&
ありがとうございました！
(生きものたち一同より。笑)

10月に稲刈りをした稲穂から、お米を外す作業です！最近では、刈り取りからこの脱穀の作業までを機械で全て行ってしまうのですが、NECの田んぼでは昔ながらの道具も使用し脱穀をします。右の写真のものは「ガーコン」と呼ばれる道具です。足踏みをする度に「ガーコン、ガーコン♪」と言うんです！これで稲束からお米の部分を取り出した



ら、唐箕（とうみ）と呼ばれる道具で、風を起こしてお米の選別を行います。←風を起こし続けるのもなかなか大変です！（風の強さを一定に保たないと上手く選別できないので…）

ボランティアの皆さんは、これらの道具の使い方を参加者の皆さんが到着前にマスターします。子ども達人たちも、ぬかるんでいる場所に藁を敷いたりとばっちり活躍してくれていました！↓



イベントが始まると、長蛇の列になるのはやはりガーコンですね！あっという間に人だかり！



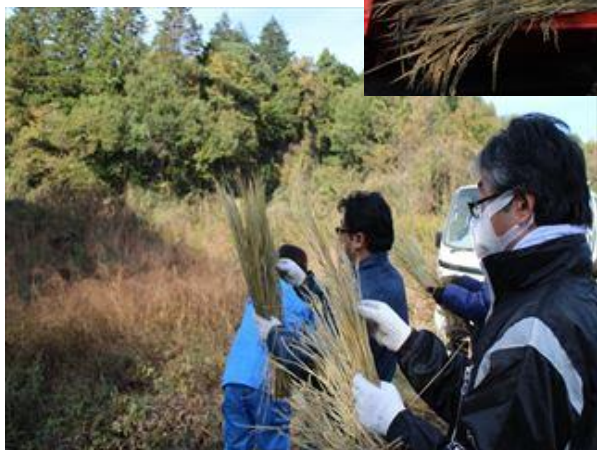
←オダにかかっている稲束を外して運びます。
たくさんある稲束も、みんなで運べば楽しいよね！



←稲束が全て外し終わったオダは、紐をとりて解体作業。使用した竹は、もう一度束ねてオダ置き場に運び、来年の稲刈り時に再利用します。



さてさて、現代機械も負けてはいません！ NEC の田んぼのお米は量が多いので、昔の道具だけでは全て脱穀しきれないため、ハーベスターという機械と並行して脱穀を行いました。やはり、機械は早い！みるみる脱穀されていきます。



←こちらは何をしているかといいますと...ハーベスターで脱穀された稲穂をもう一度チェックしているところです。まだお米が残っている稲穂を発見したら、もう一度それを集めて機械にかけます。もったいない精神です！

一方、ガーコンを終えた子どもたちは、谷津田内でおもしろいものを見つけたようです。ふわふわと風に乗っている綿はなんだろうと辿ってみると、ガマという植物！昔はこの綿を集めて、火打石の発火物や燈心（とうしん）などに用いられていたそうです。子ども達には、お祭りの屋台で見るチョコバナナに見えたようですが！笑



小川で生きもの探しをしている子ども達も！この時期は、なかなか探すのが難しいかな？つねに流れがあるので、アメンボさんたちはすいすい楽しげに泳いでいました！カエルさんたちはもう冬眠しているようですね。また春になり、生きものたちが賑やかになる日が待ち遠しいです！





脱穀を終えた藁の上で寝転がる子ども達も！意外とふかふかしている？！この谷津田で遊んでいる子ども達を見て、子ども達は「遊び」を見つける名人だなと思いました。自然とお友達になるのが上手です。



午後からはプログラムが盛りだくさん！地域の人たちに来て頂いて藁ないの仕方を教えてもらったり、どんぐりを使って作品を作ったり。



藁ないって、慣れるまでに結構時間がかかるような気がしたのですが、みなさんあっという間にマスターしていました！びっくり！藁で素敵なリースもつくってくれていました。終始和やかな雰囲気の中、皆さん真剣に、時には笑顔でお話しされていたので、こんな風景がいつまでも残る里山にしたいなと強く思いました。



どんぐりアートも可愛い作品たちが完成しました！子ども達の手にかかると、落ちているどんぐりが魔法にかかったように生き生きして見えます！！

さて、その頃大人たちが何をしていたかというと…



踏耕（ふみこう）に挑戦！！！背の高いヨシなどでやぶやぶしている場所を、みなさんで踏み踏み！！！笑
この踏んで耕す、というのは弥生時代の人たちが田んぼをつくる方法だそうです。先進技術を扱っている NEC 社員のみなさんが、弥生時代の古風な方法で開拓とは、すごいギャップです。今回、達人田んぼの向かい側を試験的にやってみよう！ということで行ったのですが、驚くべき成果をあげました！ものの数十分で、ヨシで壁になっていた場所が見違える程拓けたんです！みなさんが踏んだ場所は、いい具合にぬかるんで水が溜まり易くなるので、たくさんの生きものたちが喜ぶ場所となります。今回、試験的に行った踏耕がとても効果的である、ということが分かりましたので、これからさらに奥を再生する方法として取り入れていきたいと思います。目に見えて成果が分かり、達成感のある踏耕、ぜひ一度試しに来ていただけると嬉しいです。



それでは、次回の田んぼでお会いしましょう。 アサザ基金 牧野真弓